

●東金探索(たんさく)Map●-②

■東金＝東の金／西＝「関東の京都」のカラクリを探る！■



道の駅 みのりの郷 東金
東金市の新鮮な農産物、特産品を直売する『東金マルシェ』、千葉県下最大級の売り場面積を誇る『緑花木市場』のほか、地元の新鮮な食材を使ったレストラン『カフェ&レストランテとっちーノ』、イベント広場などを備えた産業交流拠点施設。
電車: JR東金線求名駅より徒歩約15分
車: 千葉東金道路東金I.C.より10分

①東金御殿(とうがねごてん)

慶長18年(1613年)、徳川家康が、里見氏の館山から見て「鬼門」の方角にあたる場所に、鷹狩りの際の宿泊施設という名目で、里見氏に圧力をかける狙いで作ったと言われる御殿。
翌年、慶長19年に、徳川家康は初めてここを訪れています。現在、その跡地には東金高校が建っています。

②八鶴湖(はっかくこ)

文禄3年(1594年)に、水田の灌漑と防火用水のために作られた人造湖で、当初は「谷(やつ)の池」と呼ばれていました。江戸時代末期、天保12年(1841年)に、詩人・遠山運如が、池の形が鶴に似ていることから「八鶴湖」と名付けたと言われています。
徳川家康が信奉した北極星を祭る「北辰信仰」では、北斗七星も「辰(シン/タツ)」と見なされ、水の神の龍神の気を宿す池として重要視しておりました。
八鶴湖の北西には、「日吉神社」があり、そこへ続く切り通しは、四神のひとつで、江戸の東を守る「青龍」が駆け上ったかのような様相を呈しています。
湖に突き出た半島には、女性たちの信仰を集めた弁天様。湖畔の八鶴亭の横は、かつて七軒町と呼ばれた花街。その横には、小さなお稲荷様の祠があり、菅原神社もすぐ側です。これは、京都の北野天満宮、その横の上七軒の町並みを思い浮かべる構図となっています。
湖の周囲は桜の名所となっており、夜桜は必見です。

③日吉神社(ひよしじんじゃ)

八鶴湖からの切り通しを登り、樹齢約400年の杉並木を行くと、隔年7月に神輿、山車、屋台が勇壮な巡幸をする「神幸祭」で知られる日吉神社があります。
ご祭神は、大山咋神(おおやまくいのかみ)であり、太田道灌が江戸城を築いた際に祀った産土神も大山咋神であったことから、徳川家康もこれを大切に扱い、代官に命じて、この杉並木を植えさせたと言います。

④唐金茂右衛門(とうがねもえもん)の墓

日吉神社参道の向かいの本漸寺墓地には、江戸時代に紀伊国屋文左衛門と並び称された豪商「水野茂右衛門」の宝篋印塔(ほうきょういんとう)が並んでいます。
水野茂右衛門は、酒と醤油の醸造業、材木業で巨万の富を築き、江戸猿楽町では「唐金茂右衛門東髻(あずまかずら)」という芝居も上演されたといえます。
また、「街道通るは大名じゃないか、あれは茂右衛門嫁御寮(東金甚句)」、「今日も行こかよ茂右衛門屋敷、蔵の千両箱積みかへに(東金民謡)などと、房総各地で唄われていたそうです。

⑤本漸寺(ほんぜんじ/家康お手植えの蜜柑)

東金高校横の本漸寺は、戦国時代の東金城主・酒井定隆の菩提寺として建てられた寺。
境内には、家康が初めて東金を訪れた際に、それを記念して植えた蜜柑の子孫であると言われている蜜柑の木があります。
後の領主・板倉家は毎年将軍家に「蜜柑柑子(ミカンコウジ/薄皮ミカン)」を献上していました。
また、この京都所司代であった板倉家により、東金では柑橘系の京風お菓子、京都の街づくりを思わせる街の構図へと繋がっていったのではないかとされています。

⑥最福寺(さいふくじ)

家康から直々に三十石の御朱印地を賜った寺。
当時の住職・日善上人が家康に謁見した際の様子を刻んだレリーフが飾られ、「与話情浮名横櫛」「お富与三郎」で知られる「切られ与三郎」の墓もあります。

⑦古山王神社

(こさんのおじんじゃ/東金御殿鬼門封じ)

最澄が大同2年(807年)に築いた神社。
日吉神社の元宮であり、大山咋神(おおやまくいのかみ)を祀り、東金御殿の鬼門方向を護る鬼門除けとなっています。
かつては、山王社(日吉神社)の神使、眷族である猿が飼われていたそうです。

⑧火正神社(かしょうじんじゃ)

元禄11年(1698年)1月28日、板倉重寛により創建された神社。
神輿の屋根についている左巴紋(ひだりともえもん)が「板倉家」の家紋。
幕末維新の際、譜代大名である板倉家は福島藩を治めていましたが、戊辰戦争では奥羽越列藩同盟に加わり新政府軍と戦って降伏。
明治新政府の厳しい追求を逃れ、いつの日か「板倉家が賊軍とされた過ちを正さん」とする思いを隠して、過正を火正としたのではないかと、という説もあります。

⑨久我城(くがじょう)跡

鎌倉時代後期、建長元年(1249年)に、北条長時が築城したと言われ、鎌倉幕府滅亡とともに廃城となりました。現・東金商業高校。

⑩八坂神社(やさかじんじゃ)

鎌倉幕府第6代執権で、京都「六波羅探題」であった北条長時が、久我城築城と同時に創建。
城内にあったものが、正応2年(1289年)、久我城の鬼門封じのために移築されました。
祇園様または天王様と祀られる素盞鳴尊(すさのおのみこと)を、京都にある八坂神社から勧請奉斎されたと記録されています。
明治以前は牛頭天王宮(ごずてんのうぐう)、現在は、八坂神社、天王様と呼ばれています。
本殿内殿(県指定文化財)は元禄4年(1691年)に改築され、今は、明治26年に造られた覆屋(おおいや/市指定文化財)が、本殿内殿を風雨から守っています。
境内の社殿は、京都の八坂神社と同じく、本殿の前に舞殿(神楽殿)を配する構造となっています。

⑪願成就寺(がんじょうじゅじ)

弘安3年(1280年)に、北条久時によって創建と伝えられています。
枝垂れ桜の名所としても知られ、山門脇の五輪塔は鎌倉様式の貴重な石塔です。

⑫東金城址(とうがねじょうし)

大永元年(1521)に、酒井定隆と隆敏が田間城から移ってきた城です。
定隆—隆敏—敏治—敏房—政辰と五代70年間この地を治めます。
天正十八年(1590)豊臣軍政により落城。
城は本漸寺の裏山、標高六十メートルほどの丘の上に築かれました。
地形は丘の南から西(台方)にかけては丘陵地帯の急斜面で、東は切り立った崖になっています。
本丸は東西五十メートルの五角形で、西側には二の丸があり、寺の南には城主の館などがありました。



お問合せ：道の駅みのりの郷東金
☎ 0475 (53) 3615